

農業技術情報

2024年4月26日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
JA幕別町 0155-54-4118
JAさつない 56-2131
JA帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

<麦類>

1 秋まき小麦

(1) 2024年産きたほなみの生育状況と追肥判断

ほ場条件やは種時期によりほ場間差はありますので生育状況を確認しましょう。

生育状況に応じた窒素分肥については前回技術情報および表2を参照してください。

現在小麦の生育が進んでいるため、作業が遅れないよう心がけましょう。特に縞萎縮病の発生ほ場では生育が遅れ気味になりますのでご注意ください。

表1 きたほなみの生育期節（幕別町）

	2024年	平年値	早晚
起生期	4月3日	3月30日	4日遅い
幼穂形成期	4月26日	4月30日	4日早い

※起生期:春季に至り40~50%が生長を開始し、葉の起立し始めた日

※幼穂形成期:主稈の幼穂長が平均2mmに達した日

(参考) きたほなみの生育 (4月26日 幕別町14ほ場)

	2024年			平年値 (幼穂形成期調査)
	平均	最大	最小	
茎数(本/㎡)	1,874	2,697	1,017	1,709
草丈(cm)	23.9	31.5	16.3	15.6
葉色(SPAD)	46.5	49.9	41.0	46.6

表2 きたほなみの幼穂形成期窒素分肥量の目安

茎数の目安 (4月下旬時点)	窒素施肥量 (kg/10a)	葉色 (SPAD) の目安 (4月下旬時点)	調節対応
2,000本/㎡以上	4kgを基準に(起生期~幼穂形成期の合計分肥窒素量は8kg/10a以内とする)	濃い(約46以上)	
2,000本/㎡未満		淡い(約46未満)	早急に行う

(2) 雑草対策

小麦の生育が進んでいるため、タイミングを逃さないよう適期に散布します。は種後に除草剤を未散布、または連作ほ場は特に注意が必要です。散布に当たっては適正使用に努め、薬害の発生に注意しましょう。(次頁表3参照)

融雪水の滞水などにより部分的に裸地となっている部分は特に雑草が繁茂しやすいため除草管理に気をつけましょう。

表3 麦類の除草剤使用例

薬剤名	処理方法・使用時期・10a 使用量		回数	備考
	秋まき小麦（春期）	春まき小麦		
エコパートフロアブル	止葉抽出前まで （収穫45日前） 50～75ml	小麦の2～4葉期 （収穫45日前） 50～100ml	2	展着剤、殺虫・殺菌剤と混用しない。高温時に使用しない。
MCP ソーダ塩	麦の幼穂形成期 （収穫45日前） 300g	小麦の5葉期 （収穫45日前） 200～300g	1	晴天高温時に散布する（日中20℃以上）
バサグラン液剤	小麦の幼穂形成期 （収穫45日前） 100～200ml	小麦の生育期 （収穫45日前） 100～200ml	1	散布後の降雨により効果が劣る。雑草が大きくなると効果が劣る。
ハーモニーDF 水和剤	1年生広葉雑草	ギンギン類	1	ギンギン類には処理後3週間から抑制効果が現れるが、効果の完成には7～8週間を要する。散布後は専用洗浄剤を使用する。
	節間伸長開始期～穂ばらみ期 （収穫45日前） 3～10g	小麦の幼穂形成期 （収穫45日前） 3～5g		

2 春まき小麦

作況ほ場は4月16日は種、4月26日に発芽揃を確認しています。雑草対策をする場合は、令和6年度防除ガイド（オレンジ色の冊子）p11～12を参考に、除草剤を適期に散布してください。

3 植物成長調整剤の使用

今年は平均的に茎数が多めです。倒伏が懸念される場合は植物成長調整剤の散布も検討しましょう（表4）。薬害を防ぐため、どの薬剤も他剤との混用は避けます。

表4 植物成長調整剤の使用例

薬剤名	使用時期		使用量 (ml/10a)	使用回数	備考
サイコセルPRO	秋小麦	幼穂形成期	150～200	1	・散布時期が遅れると効果が劣る ・高温時の散布は薬害の恐れがある
		出穂前20～10日 （草丈40～60cm）	200～300	1	
	春小麦	麦の6葉期前後 （草丈30～40cm）	150	1	
エスレル10	秋小麦	止葉期～出穂始期	200～333	1	30%以上の出穂をみてからでは倒伏軽減効果が劣る場合があるので適期に処理する
	春小麦				
カルタイムフロアブル	秋小麦	止葉期～出穂始期	150	1	過度な抑制を避けるため、使用時期・使用量を遵守し、多量散布や重複散布とならないよう注意する
	春小麦				

< 豆類 >

1 は種の準備

(1) 種子に合ったは種板を準備

必ず使用する種子の大きさを確認し、目標とする栽植株数（表5）となるよう粒大に合ったは種板を準備しましょう。

表5 栽植密度の目安

区 分	栽植密度 (株/10a)	畦幅×株間の目安 (cm)	
大豆： 大粒（ユキホマレ等）	8,300	66 × 18	60 × 20
コンバイン収穫等密植の場合	11,000	66 × 13	60 × 15
小粒（ユキシズカ等）	12,500～16,700	66 × 12～9	60 × 13～10
コンバイン収穫等密植の場合	27,000～30,000	66 × 5 (1粒)	60 × 6 (1粒)
小豆※ / 菜豆	8,300	66 × 18	60 × 20

※「きたろまん」は5月下旬は種において、1.5倍程度（25,100本/10a）までの密植により、成熟期の前進と増収が期待できる。ただし、倒伏が増加する事例があるので生育旺盛なほ場では標植とする（H31指導参考）。

(2) は種適期

は種は地温が十分に上がり（10℃以上）、遅霜の影響がなくなる時期になってからとします。地温が上がらず土壤水分が高いと出芽まで時間がかかり、タネバエの被害が懸念されます。

(3) 種子消毒

*薬剤による種子消毒を徹底し、欠株や生育遅延を回避しましょう（表6）。

- ① ダイズわい化病は、ジャガイモヒゲナガアブラムシが媒介して発生します。春先からの気温が高いと有翅虫の飛来が早まります。
- ② タネバエは牧草地跡や未熟有機物施用ほ場、土壤水分が高いほ場で多発します。発生が懸念される場合には、種子粉衣を実施しましょう。

表6 豆類種子処理剤例

薬剤名	使用量 (種子60kg あたり)	回数	対象病害虫										
			大豆					小豆・菜豆					
			立 枯 病	苗 立 枯 病	紫 斑 病	タ ネ バ エ	ナ ジ ガ ヤ ア ガ イ ブ ラ モ ヒ シ ゲ	立 枯 病	褐 斑 細 菌 病 (小豆)	か さ 枯 病 (菜豆)	タ ネ バ エ	ア ブ ラ ム シ 類	
クルーザー-FS30	360ml	1				○	○				○	○	
クルーザー-MAXX	480ml	1		○	○	○	○	○				○	○
チウラム80	120～300g	1	○					○					
粉衣用ペアーカスミンD	180g	1		○		○				○	○	○	

*大豆で「クルーザー-FS30」を使用する場合、「チウラム80」と必ず併用する。

*「クルーザー-MAXX」は「クルーザー-FS30」より乾きにくいいため、特に小豆・菜豆は早めに準備する。

*「粉衣用ペアーカスミンD」は大豆の斑点細菌病、「クルーザー-MAXX」は小豆の茎疫病、菜豆のリゾクトニア根腐病にも登録あり

(4) 根粒菌の接種

未接種の種子には、消毒後、最後に根粒菌を接種します。

処理は **クローザー → 殺菌剤 (MAXXは不要) → 根粒菌** の順で行います。

< てん菜 >

- ・強風時や、翌日低温が予想される場合、移植作業を中断しましょう。
- ・降雨後、無理な定植・は種作業は控えましょう。初期生育、発芽の不良に繋がります。
- ・風害・湿害対策のため畦間サブソイラー・深耕カルチを施工しましょう。
- ・移植栽培と直播栽培で登録内容が異なるので、除草剤は防除ガイド（オレンジ色の冊子）を参照し適期に使用しましょう。

野菜

< ながいも >

催芽時の湿度が高くなりすぎると良い芽ができず、植え付け後に不萌芽となる場合があります。 催芽時の湿度管理が重要です。

1 催芽管理 目標湿度80%、目標温度20～25℃

- ・1日1回数分程度、いもが新鮮な空気に触れるように換気を行う。
- ・いも表面を乾燥させないように注意する

不萌芽になりやすい芽のタイプ→ 換気不足が主な原因です

- ・いも優先芽（不定芽の下に小さいいもができる）→高湿度・換気不足
- ・複数芽タイプ（複数の不定芽が形成） →高温、高湿度、換気不足
- ・ダンゴ芽タイプ（未分化のまま肥大、根伸長）

催芽目標「分化始～
分化1cm」



- ・青かびや腐敗が生じた種子はすみやかに除去し、感染拡大を防いでください。
- ・催芽湿度80%の場合、催芽期間がやや長くなるため、植え付け日近くなっても芽の動きが悪い場合は換気に注意し、加湿してください。

2 順化 順化温度10～16℃、期間3～10日間

芽が小豆～大豆程度の大きさになったら催芽を終え、順化处理を行います。順化温度は10℃が目安です。12℃以下になると芽の伸長はほとんど停止します。

順化のポイント

- ・涼しい日陰の場所で外気に慣らす。
- ・芽が乾燥しないようにブルーシート等で被覆する。
- ・1日1回は被覆資材を開けて換気する。



3 耕起

ほ場が湿潤な時に深耕すると碎土率が低下し、植え付け溝の陥没や空洞が発生しやすくなるため注意してください。

トレンチャーは速度を上げすぎると土質により碎土性が低下し、陥没や長いもの形状を乱すことがあります。作業速度は0.2~0.4km/hを基準として、チェーン式は低速度0.2km/hで行ってください。

4 植え付け作業について

- ・植え付け作業は、地温が10℃以上になってから開始してください。
- ・覆土は5~6cmになるように植え付けしてください。深すぎると萌芽の遅れ、浅いと乾燥による芽傷みにつながります。

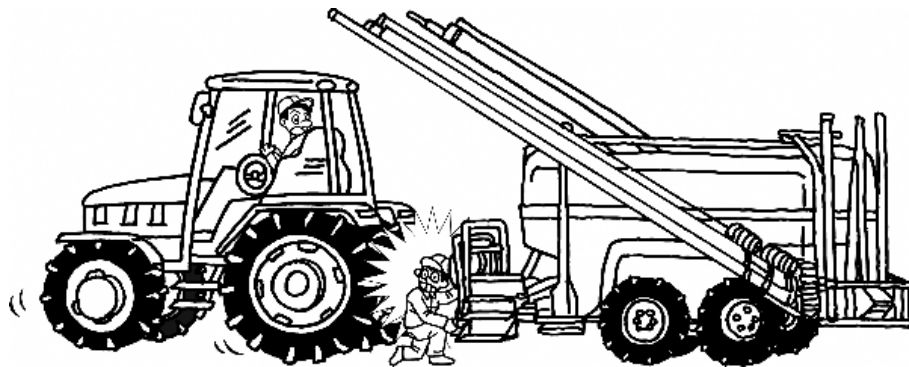
マルチ設置のメリット

- ①雑草の抑制、②地温の確保、③初期生育の向上、④越冬後の腐敗の抑制（春掘りで越冬時にマルチをはがさず使用した場合）

○春の農作業事故防止

★春の農作業事故は、機上作業中に足を滑らせ落下する例や機械の乗降時に滑り落ちる例、トラックのアオリで手や指を挟む例が多く見られます。

みんなで声をかけあい、安全作業を心がけましょう！



○周辺作物への農薬飛散防止の徹底

★除草剤散布など、スプレーヤを使用する作業が増える時期です。

隣接する作物に除草剤などの農薬が飛散すると、生育が大きく阻害されたり、定められた残留基準を超える残留農薬が検出されることがあります。トラブルを回避するためにも、風の向きやドリフト低減ノズルを使用するなど、周辺作物への飛散に十分注意しましょう。

★散布後のスプレーヤの洗浄はしっかり行いましょう

※野菜の技術情報について、令和6年より基本的にながいもの記載のみとなります。その他作物で質問等がありましたら JA または普及センターにお問い合わせください。

野菜作況（たまねぎ、ながいも）については例年どおり記載いたします。